



宇津木台 森遊会 「定例活動」 第10回 実施報告

No.2011-10

実施日	2012年3月25日(日) 10:00~16:30	天候：晴れ	記録：金森
場所	宇津木台緑地(八王子市久保山町2-1)	ときどき曇り	
参加者	参加者：8名(男性4、女性4) 原田、諸岡、鈴木(健)、後藤 衣川、平家、中田(直)、中田(美) インストラクター：金森		

実施内容

初年度全10回活動の最終回。オリンパス技術開発センター宇津木従業員玄関に10時に集合。

年度の締めくくりとして、除伐して放置したままの木々を片付ける。また、事業場の指定場所に備品置き場を設置する。さらに、来年度に向け、高圧洗浄機の試運転、バウムクーヘン作りの練習を行う。

2、3名ずつ4班に分かれて活動を開始する、各班に連絡が届くようにトランシーバーを配布した。

A) 高圧洗浄機を試運転する班

事業場の最寄りの水道とコンセントからホースとコードを延長してゆく、森のコンサート予定エリアまで丁度良い長さであった。洗浄機付属のホースは出口が密閉されており、水が流れて来ないトラブルがあったが、付属ホースは水が来てから付けることで解決した。試運転で洗浄したコンクリートはピカピカになり、数十年前の輝きを取り戻した。全体を洗浄するには8時間ほどかかると予想する。

B) 除伐を片付け焚き火をする班

伐採した大量の木々を細かく切って堆肥場に積んでゆく、テニスコート裏側のコンクリート滑走路に沿った傾斜地の除伐は進み、初年度はおよそ3分の1を完了した。明るくなったため、昨年は見られなかった赤い樺の花と白い馬酔木(アセビ)の花が綺麗に咲いていた。バウムクーヘン作りに必要な火種を確保するためドラム缶で焚き火を行う。伐採してから時間が経った木々は乾燥していた。

C) バウムクーヘンを作る班

5月に予定する炭焼きの待ち時間にバウムクーヘンなど、森の料理教室を予定している。バウムクーヘンは液状の硬さ、火加減、回転速度などの要素が複雑に関係するので今回は練習でやってみる。

竹筒に材料をかけて焼き、繰り返すこと1時間以上、完璧に仕上がった。竹筒を切り、引き抜いてバウムクーヘンを割ると見事な年輪が現れた。味も申し分なく、淹れたてのコーヒーでいただいた。

D) 備品置き場を設置する班…オリンパス事業場内に設置

八王子市から支給されたスコップ・万能袋や会で購入したドラム缶などを保管する許可が得られたので、指定された場所に雨水で濡れないようにスノコを設置する。4インチの角材4本(腐りにくいレッドシダー)の上に緑地の竹を4つに割ったものを敷いてゆく、場所の形状は三角形なのでこれに合わせて長さを切って完成させた。活動の最後に備品を置き、シートを掛けロープで固定して完了。

植生調査地の観察と間伐密度調査

植生調査地は未だ何も生えてきておらず変化が見たれないため、調査方法の資料を用いて説明した。次回の活動で実際に観察記録する。

間伐密度の測り方、結果からの間伐本数の考え方を資料によって説明した。但し、この緑地の実態は強風によって途中で折れたり、枯れたものが殆どで、間伐はこれらを優先させ、萌芽更新を目指したほうがよい。それぞれの木々の状態から間伐本数を計画してゆく。

宇津木台 森遊会 「定例活動」 第10回 実施報告

以下、写真で様子を紹介する。



各班に必要な道具を分ける



A) 高圧洗浄機を試運転する班



B) 除伐を片付け焚き火をする班



C) バウムクーヘンを作る班



D) 備品置き場を設置する班



A) ホースとコードを130m延長



A) 高圧洗浄機が無事動く



A) 5分ほどで1坪が綺麗に



B) 除伐した木々を運ぶ



B) 綺麗になった緑地



B) 堆肥場に山ができた



B) バウムクーヘンの火種を作る



C) 材料と道具を確認



C) 材料を混ぜてゆく



C) 火種を移して焼いてゆく



C) かけて焼くこと1時間以上



C) バウムクーヘンが完成



C) 竹筒を鋸で伐り引き抜く



C) 綺麗な年輪といい香り



C) 淹れたてのコーヒーで



植生調査と間伐密度調査の講義



D) 土台に竹でスノコを作る



D) 外に保管したい荷物



D) シートで覆って完成

絡事項

- ・怪我、ヒヤリハットはなし。
- ・緑地のゴミを入れたボランティア袋は、大1を宇津木台行きバス通りに面した入口に置く。
- ・次回は、2012年度の初回、4月22日竹林の間伐と筍掘り、筍を使った料理を予定する。